

【オリコンサル 危機管理防災学会主催のオンラインシンポで事務局 リスクを見える化し「自分ごと」に】

リスクを見える化し「自分ごと」に

危機管理防災学会が オンラインシンポ

日本危機管理防災学会（市川宏雄会長）主催のオンラインシンポジウム「災害リスクの見える化」防災DXの可能性と活用に向けて」が8月31日に開かれた。自治体職員や防災関係者を中心に定員の300人を超える参加者が、より実効性のある防災対策について知識を深めた。

シンポジウムは、オリエンタルコンサルタンツが事務局を担当した。災害リスクの見える化と、それを踏まえた対策の自分ごと化について、DX（デジタルトランスフォーメーション）の取り組みを含めて多面的に話題を提供した。

市川会長のあいさつに続いて、第1部は中林一樹東京都立大名誉教授が趣旨を説明し、榊真一内閣府政策統括官（防災担当）、原田智総東京



都危機管理監、加藤孝明大生産技術研究所教授・社会科学研究所特任教授、平田京子日本女子大教授の4人がそれぞれ話題提供した。

これを踏まえた第2部では、中林氏をコーディネーターに、平田教授と芝崎晴彦東京都総務局防災計画担当部長、中尾毅オリエンタルコンサルタンツ執行役員・防災事業部長の3人がパネルディスカッションし、住民・企業と都道府県・市区町村それぞれの視点からの「被害想定の正しい理解に向けた現状の問題・課題」と「防災DX化を取

り入れたリスクコミュニケーションのあり方」を論点に議論を展開した。写真。

中林氏は、災害リスクの見える化によって被害を軽減するには、映像などによる「視

覚的見える化（定量的）」だけでなく、災害シナリオなどによる「認識的見える化（定性的）」が有力な方法であると総括した。